

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470300530		
法人名	有限会社 友の里		
事業所名	グループホーム友の里		
所在地	鈴鹿市長沢町1750-1		
自己評価作成日	平成 31 年 1 月 6 日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhou_detail_2017_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2470300530-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhou_detail_2017_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2470300530-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成	31年	1月 23日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な場所でその人らしく日常生活を送っていただくこと。  
1日の流れメリハリのある生活中の支援、個々に役割を持っていただき、生きがいや楽しみを感じていただけるよう支援している。  
常に季節を感じていただくため、野菜や果物を栽培し収穫の楽しみを感じていただく。  
楽しく、ゆっくり、のんびりの中にも日々の個々の生活を大切に、一人一人が本来持っているペースに合わせた暮らしの支援をしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して18年が経過した、1ユニットのグループホームである。周りは茶園や造園用の植木畑があり、自然豊かな環境にある。ホームの敷地内が広く、いちじくや柿・かんきつ類の果樹や桜・梅などが数多く植えてあり、居ながらにして花見を楽しめる。防犯カメラを設置し、利用者の安全・安心の確保に努めている。隣りにデイサービスを併設していたが、現在は閉鎖中である。管理者は代表を務め、さらに介護支援専門員として介護計画書の作成に携わり、現場の業務にまい進し、すべて管理者が芯となって運営がされ、利用者・家族・職員の信頼が厚い。管理者の思い(理念)「楽しく、ゆっくり、のんびり」した生活ペースを守る支援が実践されている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆっくり楽しくのんびりを共有し、利用者様が自分らしく安心して生活が出来るように日ごろから実践している。	利用者の大きな声や、誰彼となく歌を歌って合唱する声が聞こえ、廊下を何度も行き来して運動に励む利用者の姿から、楽しく、ゆっくり、のんびりの理念が浸透し、日常生活の中で実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の中で地域とのつながり、関わりを持ち、地域の一員として貢献できるように話し合っている。	自治会に加入し、自治会長や民生委員から協力を得ている。近所の方から野菜やお花・果物を頂いたり、散歩では挨拶を交わしている。ボランティアの来訪もある。事業所の駐車場は広く、地域の方にも利用してもらうなど良好な関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を通し、認知症高齢者の介護について話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営状況や、利用者の状況を報告している。	事業所の現況報告を中心に参加者と意見交換をしている。ホーム隣の空き地で早朝から火を燃やされ、風向きによっては火の粉や煙がたちこめ、さらには延焼の心配をしている旨会議の席上で話したら、自治会長がそちらへ注意をしていただいた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の自治会長、民生委員、包括の方に定期的に情報を伝えている。	介護保険更新の手続きに、市の広域連合には出向いている。また、わからないことは教えてもらい、助言指導を受けている。研修案内もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に「朝夕」申し送、職員会議とで話し合い、職員全員が意識して介護業務に従事している。	日常、実践の中で拘束の弊害や拘束にあたるかどうかを検討している。会議でも研修として取り組んでいる。	平成30年4月からの介護保険法改正に伴い、身体拘束等適正化の指針が提示され、それに沿った体制づくりに早急に取り組むよう期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に利用者にも目を向け、身体、体調に異常がないか気づきを大切に介護に従事している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて関係者と話し合い、なおかつ必要に応じ職員全員が理解するように話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際重要事項説明書と利用契約書の内容について説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろのコミュニケーションを中心に意見聴取に努めている。毎月1回利用者様の様子を見に来ていただけるよう家族様との連携をしている。	家族との面会を確実にするため、利用料は現金払いにしており、家族の訪問は定期的にある。コミュニケーションはよくとるよう心掛け、その都度対応をしており、家族会も年1回開き、継続している。また、ホームたよりを発行し利用者の様子を知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に介護業務に関わり、職員の意見や提案を聞いている。	職員から管理者へは、意見はいつでも提案ができる。職員の自主性も育ち、それぞれの役割の中で、職員の創意工夫を活かしたケアが実践されている。職員の親睦会も年2回、開催されて、職員同士コミュニケーションもよい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の実績、能力に応じた給与形態を取っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回事業所内で研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の施設見学、連携等で知識を得てサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族、ケアマネ、主治医等の関係者から情報を収集し、状況の把握に努め、入居後は本人が馴染めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、希望、不安や困りごとを聞く機会(毎月1回)儲け一緒に利用者様を支えていける様相談を密に行い信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況を本人、家族、関係者からの情報を収集し、必要に応じて他のサービスの紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者様が安心して、生き生きと日常生活が過ごせるよう日々取り組んでいる。一緒に過ごすことで、利用者から学ぶこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用料の支払いを振込でなく、なるべく持参していただけるようお願いしている。通院介助や必要な物品等持参していただけるように連携している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の馴染みの方との関係が途切れないに本人、家族に聞き、面会や電話、手紙のやり取りが何時でもできるようにしている。	知人の訪問がある。電話の対応、年賀状を出す支援を継続している。初詣は椿神社へ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時々状況に応じ1人1人が孤立せず安心して共同生活を営めるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所への訪問や相談がしやすい環境づくりに努めている。依頼があればいつでも相談にのり可能な限りの情報提供もしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活やホームでの過ごし方を踏まえ、意向の「日常生活記録」に記入し、把握に努めている。困難な場合は家族の思いや要望、本人の言動等をもとに検討している。	「日常生活記録」は、利用者の一日の流れの記録を職員が記入し、余白に利用者から聞いた思いを特記事項で記入し、申し送りで職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、関係機関等からの情報を収集し、入居前の生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、夕の申し送りで、変化の状態を職員が共有し、個々の状況を記録し日常的に職員全員と意見を交換している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に移行をもとに、介護計画に反映させている。	アセスメントをとって、サービス担当者会議を開催し、介護計画書を作成している。医師には訪問診療時などで確認し、家族は面会時に意向を聞いている。4か月の目標期間を決めて、モニタリングを行い、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別に記録し、朝夕の申し送りでも利用者の細かな状況の変化にも対応できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態の変化に伴い、柔軟に対応できるよう努めている。外部との連携で体調の変化に伴い主治医との連携し共有できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア団体の把握に努め、暮らしを支える上で協力していただけるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を優先し、通院介助は原則家族が行うが、必要な情報の伝達は、書面または電話連絡をしている。家族が困難な場合は施設が対応している。	協力医をかかりつけ医にしている利用者は8名で、月に1回訪問診療を受けている。在宅医療に力を入れているクリニックで、いつでも対応が可能である。専門医には家族で通院をお願いしているが、出来ない時はホームで対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康管理や服薬管理を状態の変化に伴い協力医医療機関(主治医)と密に連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際し、本人に関する情報を提供すると共に早期退院に向けた働き掛けを行っている。また入院中の経過について定期的に問い合わせ、情報の交換や状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期の援助について事業所の考え方やホームで出来ること、できないこと等を説明し理解を得ている。ホームでの見取り介護の希望がある場合は主治医と家族との話し合う場を設け支援に取り組んでいる。	看取りはする方針である。利用者の状態変化で医師が終末期と判断したら、医師・家族・職員で十分に話し合いをもって、対応をしていく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当のマニュアルを整備し、急変や事故発生時に対応できるようにしている。また定期的な訓練(AED)救急救命講習をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルに応じ、防空頭巾等を用い定期的に避難訓練をしている。	年2回の防災訓練は、消火訓練・避難訓練を実施している。独自で避難袋を作って、玄関の靴箱の上に置いて訓練で活用している。防災設備業者による機器の使い方も定期的に行っている。非常用にLEDの懐中電灯が廊下の手すりにいくつか配置してある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の尊厳を守り羞恥心に配慮しながら支援を行うようにしている。毎日のミーティング等で意識付けている。	入浴や排泄など羞恥心が伴うことは、人格を尊重した支援を職員に徹底させて努めている。書類は、事務所で鍵のかかる書庫で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との信頼関係を築く上でも日々のかかわりの中で、1人ひとりの意思を尊重し、また、利用者が不安に思っていること等を表現できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れを優先することのないよう毎日の業務や、ミーティングの際に話し合うよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えに際しては出来る限り本人が衣類を選択できるよう、その人の好みを尊重するよう心掛けている。困難な場合はその人の好みに合った衣類を選択するように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好み・体調に合った、栄養のバランスを考慮し、「栄養士が立てた献立」「食材」を利用している。時には利用者様の希望を取り入れた献立での提供に心掛けている。	給食業者委託で、献立や調理がされている。土・日は管理者の手作りの料理が提供される。家庭菜園で収穫した野菜や頂いた野菜が食材になっている。家族から山口県で釣ってきた魚を頂き、管理者がさばいて刺身で味わった。外食や特別食も利用者の楽しみである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事の量、水分量をチェックし個別記録に残し、その人に合った食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、歯磨き、就寝前口腔ケア、鼻腔消毒、喉の消毒、義歯の清潔（洗浄剤に浸ける）等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの能力や意思を尊重し、トイレでの排泄を優先に支援している。	利用者一人ひとりの能力・意思を尊重し、排泄パターンを把握し、タイミングに合わせて声をかけ・トイレ誘導を行っている。トイレまで歩くことも筋トレととらえ、全員がトイレでの排泄をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄の状況を記録し、利用者個々の排泄の状況を把握し、又主治医との連携で個々に見合った排泄の状況を支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴している。入浴の好きなひと、嫌いな人さまざまでも入浴前に気持ちの準備が出来るよう早めに入浴日であることを告げる工夫をしている。また拒否のある方には無理強いしない工夫をしている。	週3回、午前中の中の入浴を実施している。入らない人には清拭で対応をしている。入浴剤は利用者のお気に入りで使用し、季節に応じてしょうぶ湯やゆず湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの体調に合わせ無理のない範囲で運動「内外歩行」等で夜間の安眠に繋げる工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容とその作用については、個別にファイルし、状況の変化等について経過を観察し主治医に報告・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりが役割や楽しみを取り入れて生活が出来るよう取り組んでいる。毎月の行事企画に参加されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、買い物等の外出援助を行っている。また個別に家族と共に買い物や旅行、自宅での宿泊が日常的に行えるよう努めている。	天気の良い日は周辺へ散歩に出かけている。近隣は果樹や植木があり、季節ごとに花見が楽しめる。リビングから広いデッキが設備されて、そこでは、コーヒータイムしながらお茶やおやつを頂く楽しみもある。弁当を作って花見に出かける支援もしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーや近隣のコンビニへ買い物に出かけ、金銭の支払いできる方はご自分の好みのものを購入し自分で支払いをして頂く支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは、自由に行ってもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設庭の野菜、果物を一緒に収穫し楽しみ、施設内では様々なゲームで楽しんでいる。	共有スペースは明るく、テレビを見たり歌ったりレクリエーションをする場になっている。壁には写真や絵など利用者の作品が飾られて、季節感を醸し出している。午前中はリビングで過ごし、昼食後はしばらく居室にもどって午睡の時間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは憩いの場としてスペースを広く取り、また開放的な大きな窓の外にウッドデッキを設置し、窓からは、高速道路を走る車の様子、又、花・果実・野菜などを眺められる居心地の良い環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、家族の写真や馴染みの物に囲まれ安心して暮らせるよう配慮している。	テレビや衣装ケース、家族と一緒に写真が飾られ、思い思いの居室になっている。概ねシンプルな設えで整理整頓が行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様個々の状態に合わせ居室ドアの目の高さに表札を掲示し自己の部屋が分かりやすくしている。またトイレのドアにもわかりやすく掲示している。迷いがあったらその都度職員が対応している。		